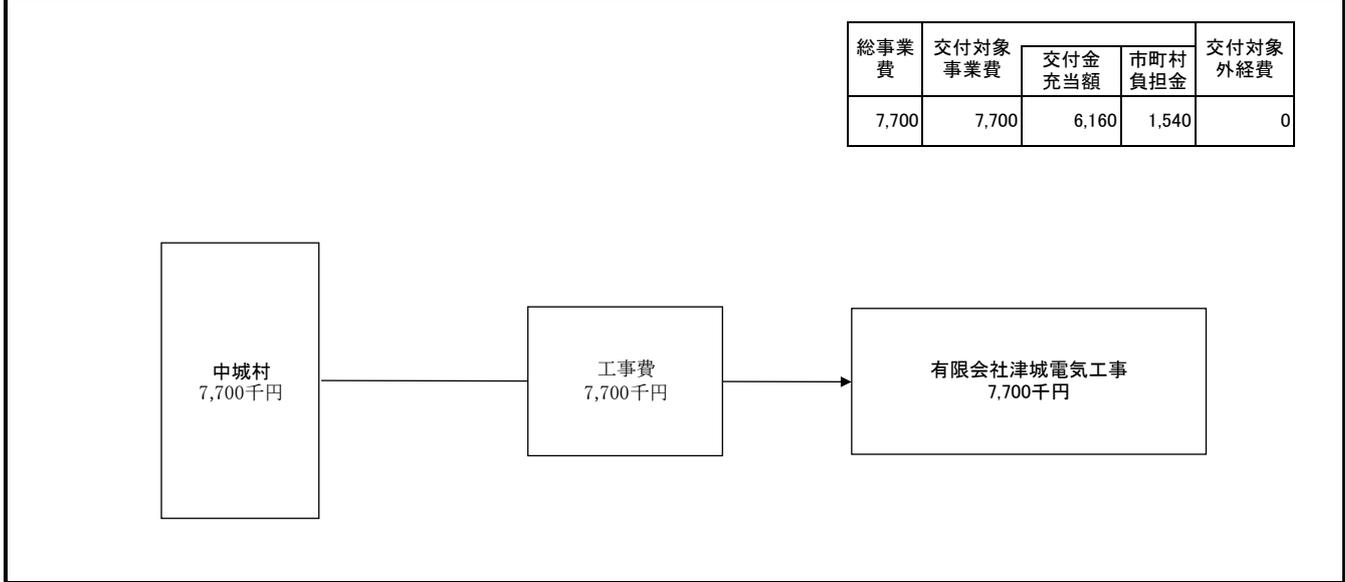


市町村名		中城村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	省エネ化推進整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	令和元年～3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 Ⅲ-10-(2)	
事業内容	環境に優しい(温暖化対策)村づくりを推進するため、公共施設等の照明器具にLEDを導入する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R4年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度			
	予算の状況	(a)当初予算額	9,000	60,000	9,000		
		(b)予算現額	7,414	35,000	7,700		
		(c)増減額(b-a)	▲1,586	▲25,000	▲1,300		
		(d)繰越額	0	0	0		
	A. 計(b+d)		7,414	35,000	7,700		
	B. 執行済額		7,414	33,925	7,700		
	うち交付金充当額		5,931	27,140	6,160		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	96.9%	100.0%		
予算の状況の説明		適切に予算執行し、目的通り執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R3年度		
	防犯灯400基にLEDを導入	目標	(実施)	(導入)	(実施)		
		実績	実施	導入	実施		
村立小学校体育館照明をLEDに整備を実施	目標	()	()	(実施)			
	実績			実施			
達成状況説明	・当初計画していたとおりLED整備を実施することができた、						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	防犯灯400基をLEDに整備	目標	()	(完了)	(400基整備)	()	(-)
		実績		完了	301基整備		
	村立小学校体育館照明をLEDに整備の完了	目標	()	(-)	(-)	(完了)	(-)
		実績				完了	
【参考指標】 LED導入による温室効果ガス(CO2)排出量の削減効果:32.8t-CO2/年の削減		目標	()	(-)	(-)	(-)	(32.8t)
進捗状況説明	目的の通り、既存照明からCO2削減が行えるLED照明を整備することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	環境に優しい村づくりの推進としてCO2排出量削減効果があるLED照明を導入することができた。引き続き公共施設のCO2削減について取り組んでいかなければならない。	今回の事業は学校施設である体育館へのLED照明導入だったため、授業の兼ね合い等もあったことから前年度より学校側と調整していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休校等で夏休や冬休み期間が変動したため工事実施時期を当初予定から変更する必要があった。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・CO2削減が見込まれる公共施設について、今後も導入に向けて検討していく。 ・学校施設への導入については新型コロナウイルス感染症の状況も勘案しなければならないことから、事前に関係者と調整し事業実施に遅れが生じないように調整する。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札により業者を決定しており、適正であった。 ○予算規模については不用額は発生しているが、数量変更によるものであり適正な金額であった。 ○費目・用途について事業目的達成に必要な工事費に充 当し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	吉の浦公園施設機能強化整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	地域振興及び観光誘客を図るため、健康づくりや文化振興の拠点として吉の浦公園等施設の整備を実施する。また、プロサッカーチームの合宿誘致を図るため、陸上競技場の芝生の適正管理等を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R4年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度(繰)	R3年度	
		(a)当初予算額	19,634	135,321	175,327		44,434
		(b)予算現額	19,634	107,341	149,536		36,000
		(c)増減額(b-a)	0	▲27,980	▲25,791	0	▲8,434
		(d)繰越額		0		45,001	0
		A.計(b+d)	19,634	107,341	149,536	45,001	36,000
		B.執行済額	18,684	107,341	104,535	25,729	33,226
		うち交付金充当額	14,947	85,873	83,628	20,583	26,580
		次年度繰越額			45,001	0	0
		執行率(%) (B/A)	95.2%	100.0%	69.9%	57.2%	92.3%
予算の状況の説明		当初の目的通り適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	陸上競技場芝適正管理業務委託	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	吉の浦公園休憩所解体及び遊具整備の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
吉の浦会館LED照明整備の実施	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施		
達成状況説明	・吉の浦公園等機能強化整備事業に関して、継続したごさまる陸上競技場芝生管理を実施している。併せて、遊具の整備を行うことで、新たな利用目的を増やした。さらに、照明機能の強化を行い、利用者が安全安心に園内を回遊できるようになった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	プロサッカーチームの合宿誘致2件以上	目標	()	(2チーム)	(2チーム)	(2チーム)	()
		実績		2チーム	2チーム	2チーム	
	吉の浦公園休憩所解体及び遊具整備の実施	目標	()	()	()	(実施)	()
		実績				実施	
	吉の浦会館LED照明整備の実施	目標	()	()	()	(実施)	()
		実績				実施	
	【参考指標】遊具が整備されたことにより運動しやすい環境が整ったことで運動不足が解消されたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について施設利用者のアンケートで検証する。	目標	()	()	()	()	(80%)
		実績					
	【参考指標】吉の浦会館のLED照明整備により施設の利便性の向上について(80%以上)利用者へのアンケートで検証する。	目標	()	()	()	()	(80%)
実績							
【参考指標】R2整備完了後1年目の野球場利用者数	目標	()	()	()	(12,000人以上)	()	
	実績				3,542人		
【参考指標】夜間利用者の安全度が確保されたか(80%以上)を含め、利用者に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	()	(80%以上)	()	
	実績				80%		

【参考指標】 LED導入による温室効果ガス(CO2)排出量の削減効果:14.61t-CO2/年の削減	目標	() () () (14.6t) ()
	実績	/ 3.5t /
進捗状況説明	適正な芝管理を継続してきたことでプロサッカー2チームのキャンプ受入を目標通り実施し観光誘客を促進することができた。遊具整備・照明機能強化を整備したことで施設利用者の利便性・安全面を向上させることができた。	

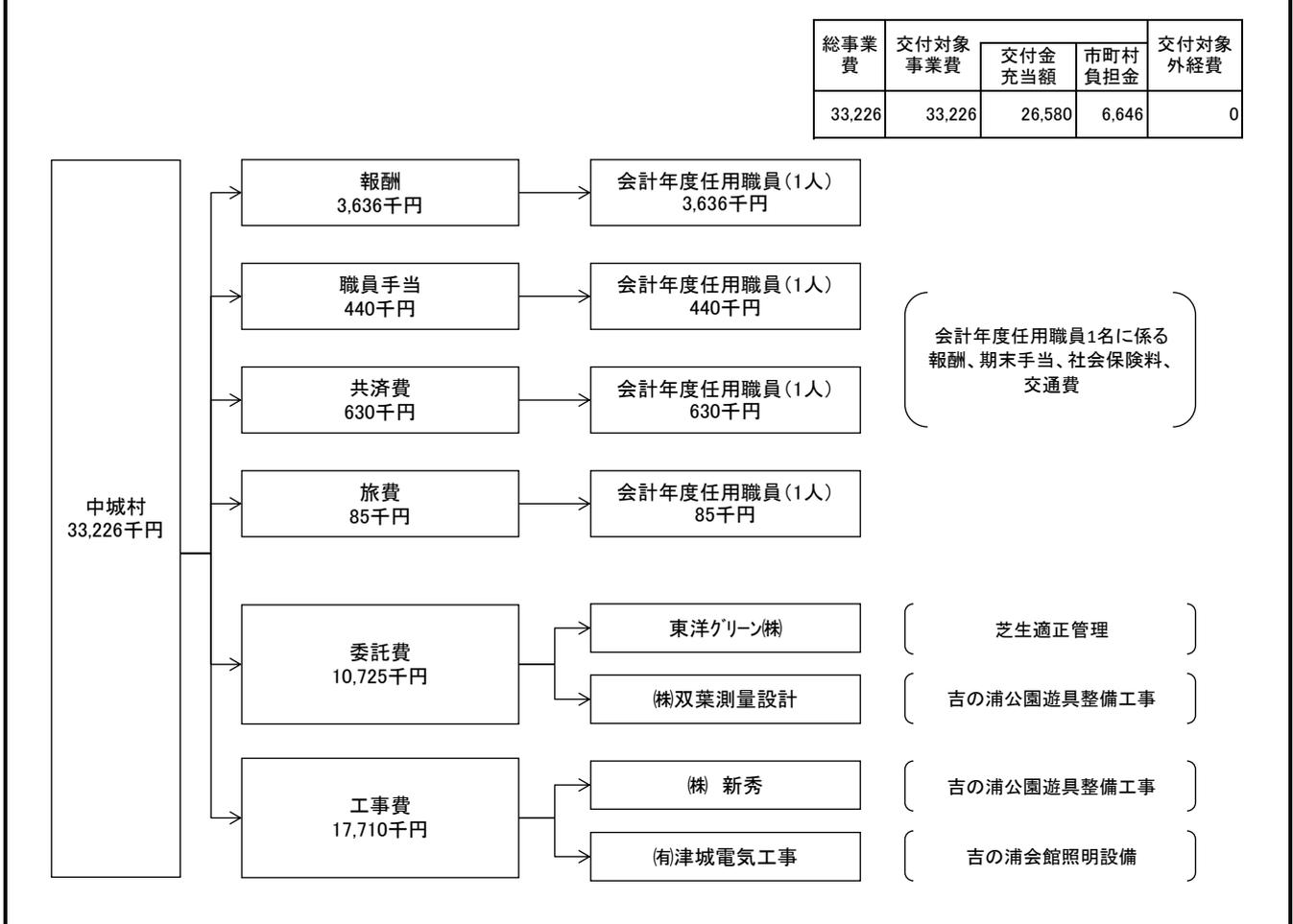
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(プロサッカーキャンプ受入) 良質な状態の芝を維持できているため、プロサッカーチーム受入数の目標は達成しているが、芝管理は専門性が高く、継続して管理委託を行っていかなければならない。 (遊具整備・照明機能強化) 施設の機能強化が図られたことから、利用拡大に向けたPRが重要となる。	(プロサッカーキャンプ受入) 持続的に良質な芝管理ができるよう専門的知識及び技術を有する事業者へ管理してもらう必要がある。 (遊具整備・照明機能強化) 施設の機能強化が図られたことから、利用拡大に向けたPRが重要となる。

今後の取り組み方針

(プロサッカーキャンプ受入)
良質な芝の適正管理を継続して実施し、関係機関と連携しながら受入体制の強化に取り組むことで、プロサッカーチームキャンプの定着化を図り観光誘客を促進する。

(遊具整備・照明機能強化)
施設機能強化による利便性向上について村HPや広報で周知するとともに、村体育協会やスポーツ推進協議会等の関係団体と連携し、各種大会での活用を促す等、利用拡大に取り組み、地域振興を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



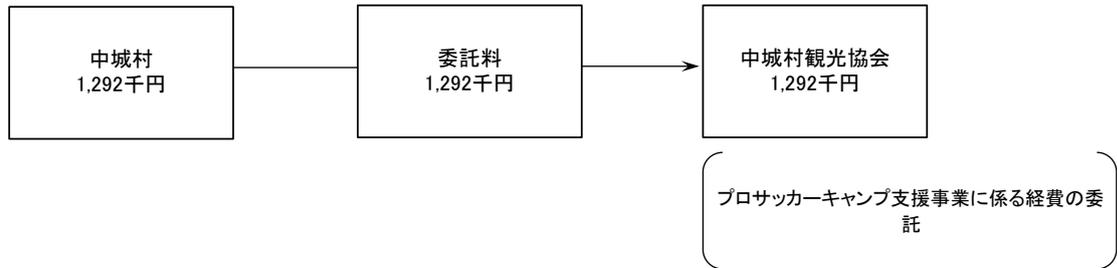
資金の流し、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札により業者を決定しており、適正であった。 ○各工事及び設計委託に関して、相見積が出されており、適正な業者選定及び規模である。 ○費目・使途について事業目的達成に必要な工事費に充当し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村						
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	プロサッカーキャンプ支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	スポーツキャンプを通して、観光地としての魅力を発信し観光誘客を図るため、プロサッカーチームの冬季キャンプ誘致活動並びにキャンプ受入の歓迎イベントの開催、また円滑なキャンプ実施の為に警備を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,622	1,484	1,710	1,720	2,106
		(b) 予算現額	947	1,334	1,710	1,720	1,903
		(c) 増減額(b-a)	▲1,675	▲150	0	0	▲203
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		947	1,334	1,710	1,720	1,903
	B. 執行済額		947	1,334	1,701	770	1,292
	うち交付金充当額		757	1,067	1,360	600	1,034
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	99.5%	44.8%	67.9%
予算の状況の説明		不用額は新型コロナウイルス感染症の影響によるものであり、適切に事業を執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	プロサッカーチームの誘致活動の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	キャンプの支援事業実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	・本村のサッカーキャンプに関する受入体制のPRやキャンプ期間中の支援など、プロサッカーチームの誘致活動を実施した。 ・1～2月のキャンプ期間中は支援事業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	キャンプ見学者数	目標	()	(9,360人)	(8,960人)	(8,480人)	()
		実績		8,023人	0人	0人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・今年度も継続してプロサッカーチームを誘致することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症予防・拡大防止のため、完全非公開での実施としグッズ販売やイベント等は全て中止となったことから、目標を達することができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新型コロナウイルス感染症の影響により、規模縮小の事業内容となったが、継続して誘致活動やキャンプ支援事業を実施することができた。今後は新型コロナウイルス感染症に適応した対策を講じ、誘客に向けた取り組みが必要である。	コロナ禍においても、チームに安心・安全なキャンプを実施できる環境を提供しキャンプ地としての定着化を図る。併せて、見学者に対しても安心・安全に観戦できる環境を構築する。
今後の取り組み方針		
<p>キャンプ地となる競技場の維持管理や観光地としての魅力発信に努め、プロサッカーチームや見学者共にまた来たいと思えるよう取り組む。 また、プロサッカーチームや見学者に対して、マスク着用、検温や消毒の徹底、各々の適切な距離の確保、発声を控える等、また、国や各団体のガイドラインに準じた対策を講じ安心・安全に過ごせるキャンプを実施することで、村内周遊や地域活性化に繋げていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,298	1,292	1,033	259	6

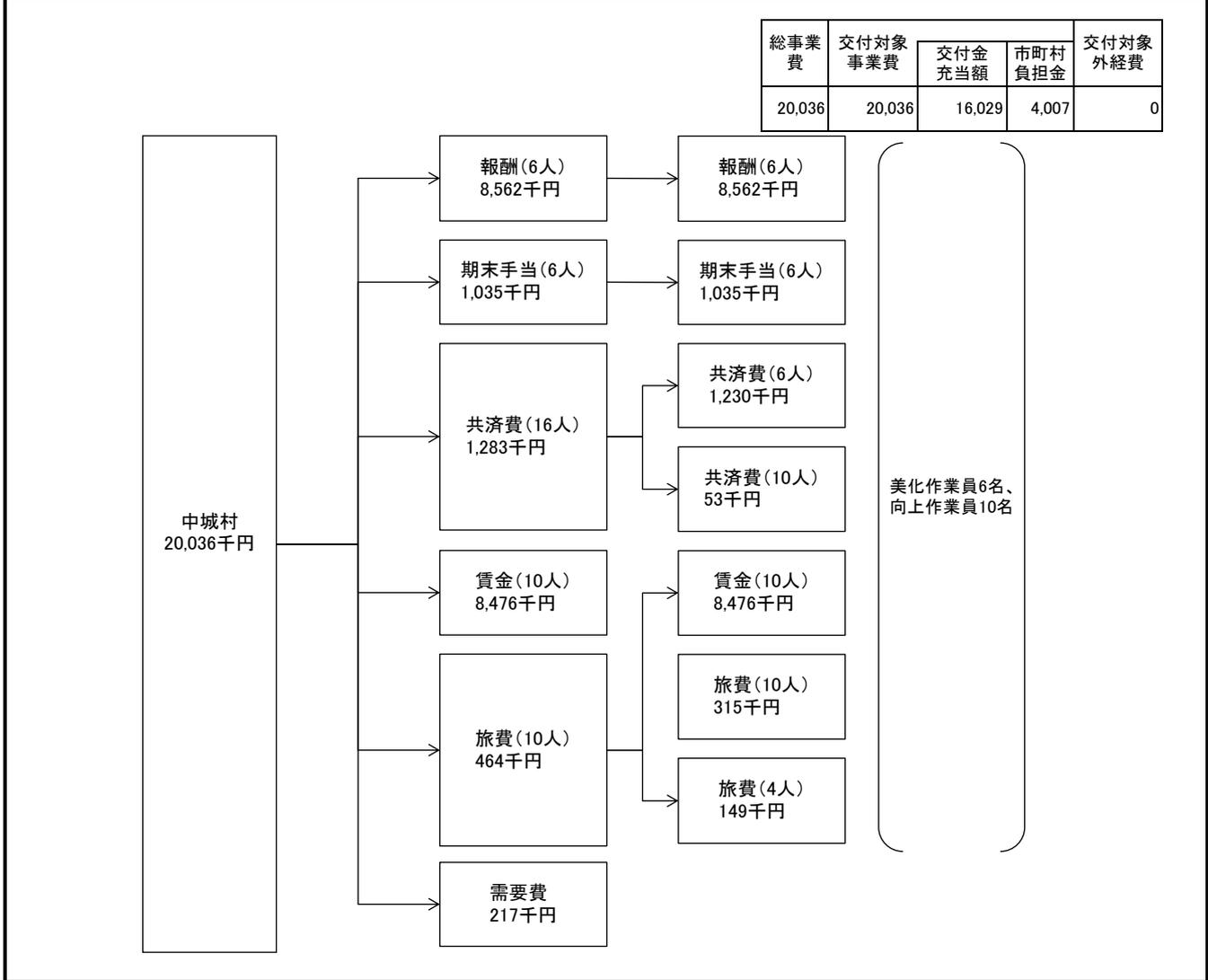


資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託先は村観光振興に資する団体であることから、妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、不用額が生じ当初計画通り実施できなかったが達成状況を鑑みると妥当であると考えます。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用、使途においては、清算時に検査をしていることから必要なものに限定されていると考えます。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村						
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	観光地周辺環境美化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ			
担当部署名	都市建設課・産業振興課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	観光地及び観光地へのアクセス道路の美化清掃を行い、観光客の満足度向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	15758	20,360	21,727	21,836	23,192
		(b) 予算現額	13772	19,665	20,519	20,387	20,036
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,986	▲ 695	▲ 1,208	▲ 1,449	▲ 3,156
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	13,772	19,665	20,519	20,387	20,036	
	B. 執行済額	13772	19665	20519	20387	20036	
	うち交付金充当額	11017	15371	16414	16309	16029	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	適切に予算執行し、事業に関しても目的通り執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	環境美化作業員 6名	目標	(6名)	(6名)	(6名)	(6名)	
		実績	6名	6名	6名	6名	
	中城城跡環境向上作業員 10名	目標	()	(10名)	(10名)	(10名)	
実績			10名	10名	10名		
達成状況説明	美化作業員6名、向上作業員10名の採用により、年度を通して美化活動を実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	・観光客の満足度向上が図られたか(80%)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		81%	89%	未実施	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	例年、ごさまるウォーク等でのアンケート調査を実施し、指標実績を算出するが今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止等の影響により、各種イベントが自粛されたため、アンケート調査が実施できず、指標実績を算出することができなかったが、歩行者が安全・安心に利用できるよう、不快な状況にある個所を作業員と確認しながら作業を実施し観光地としてふさわしい景観創出ができた。						

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	年間を通し、作業の効率性を考えながら、作業工程を見直しながら実施していたが、草の伸びの早い時期や悪天候により作業が行き届いていない箇所や作業の遅れがあった。 作業を実施しているハンタ道は、文化庁が保存と活用を広く国民に顕彰するために選定する「歴史の道百選」にも登録され、利用者が増加している。 利用する歩行者からの草刈依頼の要望もあり、作業が間に合っていない区間など利用する歩行者の目線で効率的かつ早急に実施できるよう計画しなければならない。 また、中城城跡においては、歴史観光客を受入れられるよう万全の体制を整え、新規のリピーターを獲得することで観光誘客に繋げていかなければならない。	悪天候により作業ができなかった場合や夏場の草の伸びの早い時期などは、歩行に支障がでている区間がないか確認し、先に作業を行うなど常に効率性を考え、作業計画の見直しを行いながら実施する必要がある。
	今後の取り組み方針	
<p>作業は天候により、進捗が左右されることがあるため、作業員と現場の状況や確認を常に行い共有し、現場状況に応じた作業工程の見直しを行い効率的に作業を実施していく。</p> <p>また、リピーターだけでなく初めて観光に訪れた方でも安全・安心・快適に周遊できる環境創出に取り組み更なる観光誘客を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



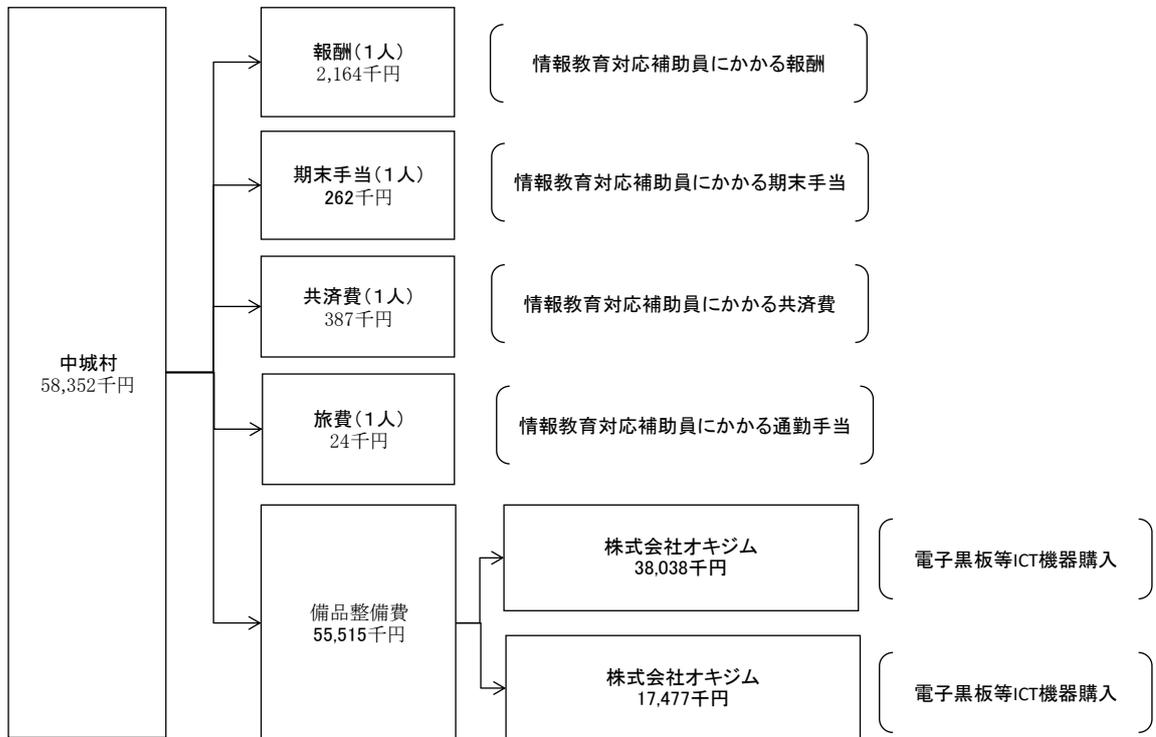
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、必要なものに限定されていると判断した。 ○作業員の採用については村の条例規則に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。 ○成果目標もほぼ達成できたことから、予算規模は適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	ICTを使用したわかりやすい授業を実施することによる学校教育の質の確保及び教員のICT機器活用の習熟を図るため、小中学校にICT機器を整備する。また、情報教育補助員を配置し、授業支援やICT機器活用に向けた環境整備を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,904	2,056	21,520	50,220	41,297
		(b) 予算現額	2,020	2,081	20,429	34,589	58,897
		(c) 増減額(b-a)	116	25	▲ 1,091	▲ 15,631	17,600
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		2,020	2,081	20,429	34,589	58,897
	B. 執行済額		2,015	2,081	20,429	34,589	58,352
	うち交付金充当額		1,611	1,644	16,343	27,671	46,681
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%
予算の状況の説明		適切に予算執行し、目的通り執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・情報教育補助員を配置し授業支援を行うとともに電子黒板等ICT機器の整備を実施する。		目標 (実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
			実績 実施	実施	実施	実施	
		目標 ()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明		・当初計画していた電子黒板を35台整備し、さらに次年度整備予定であった16台を前倒して整備することが可能となったため、必要とされる台数を完備することができた。 ・ICT支援員を1名配置し、研修や授業支援、障害対応等を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上		目標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績	84%	81%	95.5%	
	・教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合:80%以上		目標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績	85%	84%	99%		
進捗状況説明		・授業が分かりやすかったと答えた児童生徒数は95.5%となり、目標値以上となった。 ・教職員において習熟度が上がった割合が99%と高く、児童生徒の関心を引くのに役立ち、様々な教科で活用している。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> GIGAスクール構想に基づき、一人一台の端末が使用できる環境になっており、さらなる電子黒板の利活用が求められる。 教職員の習熟度を毎年高め、児童生徒が分かりやすい教育環境を構築する必要がある。 新型コロナウイルス感染症の影響によって、教室内における感染リスクを低減させるためにも、様々な活用が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器活用の研究を重ね、授業での活用方法をより効果的に取組めるよう向上させる。 過年度に整備したICT機器の更新の検討を進める必要がある。 コロナ禍において、感染症対策の観点からも、ICT機器の重要性は高まっているため、対応できる研修等の取組が必要である。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ICT関連の研修、指導等を行い、教員の授業改善、児童生徒の理解力向上へ向けて、更なる充実や改善を図る。 児童生徒が様々な分野で活用でき、GIGAスクール構想も併せて、ICT機器を活用した授業支援へ取り組む 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	負担金	
58,352	58,352	46,681	11,671	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ ICT支援員の採用については村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ ICT機器の整備にあたっては、指名競争入札により契約を行っており、妥当であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 成果目標もほぼ達成できたことから、予算規模は適正であったと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 費目・用途については、目的達成に必要な人件費等に充当し限定されている。

市町村名		中城村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	きめ細かな児童生徒支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	
事業内容	特別な支援を要する児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図るため、村内幼小中学校に特別支援員を配置し支援を行うとともに、不登校など課題のある児童生徒の改善を図るため、教育相談員と心理相談員を配置し支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	(a) 当初予算額	53,607	49,843	55,676	44,368	39,180	
	(b) 予算現額	44,986	41,835	46,221	41,098	30,000	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 8,621	▲ 8,008	▲ 9,455	▲ 3,270	▲ 9,180	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	44,986	41,835	46,221	41,098	30,000	
	B. 執行済額	44,986	41,712	46,221	41,098	29,136	
	うち交付金充当額	35,988	33,369	39,976	32,878	23,308	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.7%	100.0%	100.0%	97.1%	
予算の状況の説明	学校休校に伴う勤務日数の減等により、報酬等の減額が生じたが、予算は目的通り適切に執行された。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	特別支援員配置 9人 (幼稚園 2人、小学校 6人、中学校 1人)	目標	(幼稚園6人、小学校12人、中学校3人)	(幼稚園4人、小学校15人、中学校3人)	(幼稚園4人、小学校9人、中学校2人)	(幼稚園2人、小学校6人、中学校1人)	
		実績	(幼稚園5人、小学校13人、中学校2人)	(幼稚園5人、小学校14人、中学校3人)	(幼稚園4人、小学校9人、中学校1人)	(幼稚園2人、小学校6人、中学校1人)	
	相談員の配置 4人 (教育相談員3人、心理相談員1人)	目標	(教育相談員3人、心理相談員1人)	(教育相談員3人、心理相談員1人)	(教育相談員3人、心理相談員1人)	(教育相談員3人、心理相談員1人)	
実績		(教育相談員3人、心理相談員1人)	(教育相談員3人、心理相談員1人)	(教育相談員3人、心理相談員1人)	(教育相談員3人、心理相談員1人)		
達成状況説明	該当児童生徒が落ち着いて学校生活を送れるよう、支援員等を配置し個々にあったサポートを実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	・特別支援員の対応への満足度(70%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(70%)	(70%)	(70%)	()
		実績		79%	84%	96%	
	不登校児童生徒復帰率46%以上	目標	()	(57%)	(49%)	(46%)	()
		実績		56%	23%	44%	
進捗状況説明	・保護者アンケートで96%の満足度を得られた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による学校休校等、不安定な社会情勢の影響もあったが、継続して教育相談を実施し支援を行った結果不登校児童生徒復帰率については前年度より復帰率が向上した。 ・支援を必要とする児童生徒の得意なことや苦手なこと、理解しにくい行動を取ってしまう理由などを、周囲の児童生徒理解しやすいように伝える役割を担ったことで、トラブル発生報告件数が0(ゼロ)となった。 ・てんかんの発作が頻繁に起こるような児童生徒を把握し支援できたことで、「授業での学びにくさ(不安感)」の解消がみられた。 ・心理的に不安定な児童生徒へ継続して相談実施し、早期発見、早期対応、が行き届いたことで児童・保護者の問題を共有することができた。						

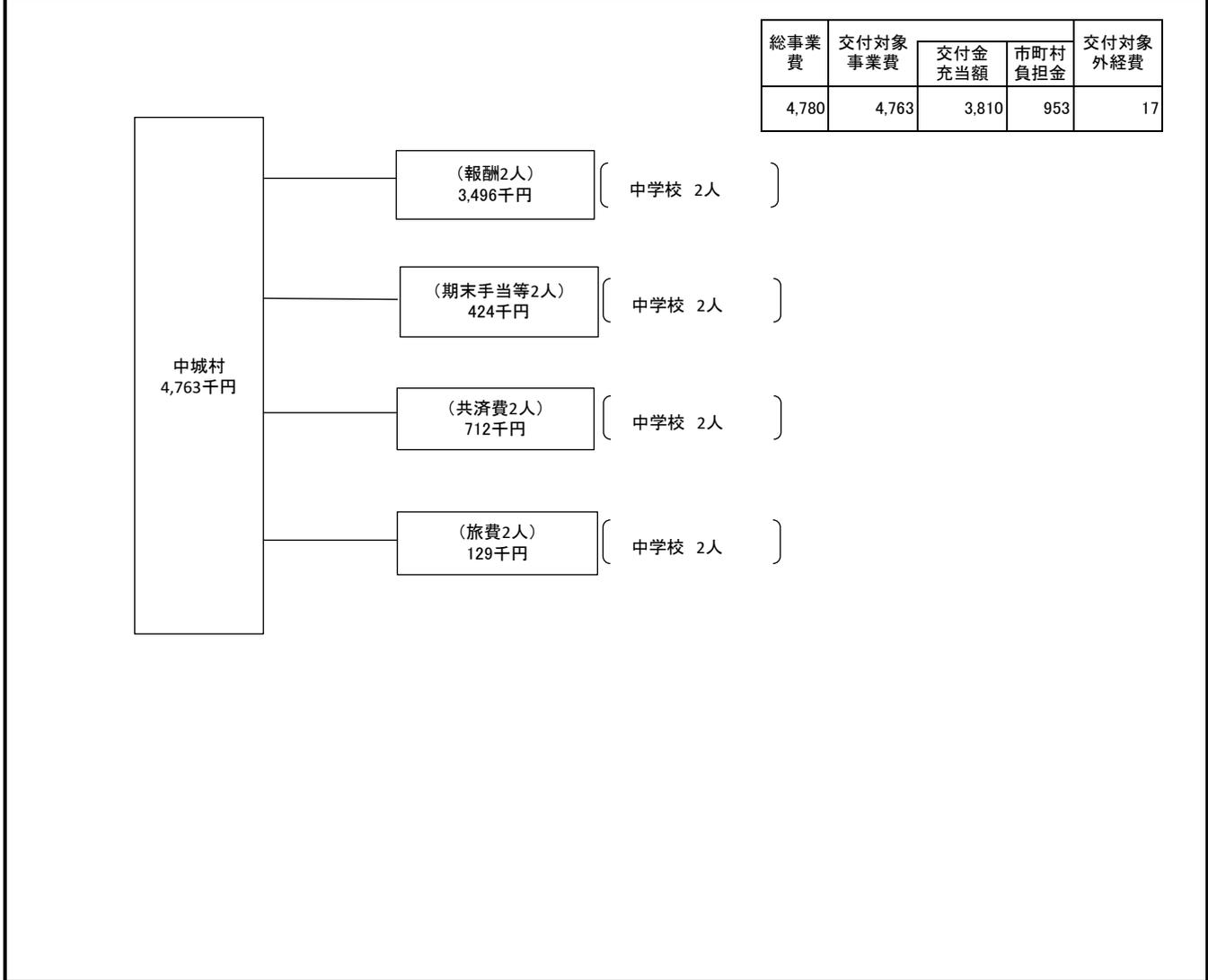
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(特別支援員アンケート) 保護者と協同で作成した個別の支援計画のもと、発達に沿った支援が提供できた。引き続き保護者と連携・協働しながら支援を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と他の子供が活動している間、てんかんの発作が頻繁に起こるような児童生徒を把握する体制を構築する必要がある。 ・体育の授業や図工、家庭科の実技を伴う場面(特にカッターナイフや包丁、火などを使う場面)で、安全面での確保を行うための対応方法。 ・児童生徒の人権に配慮した対応(日常会話や名前の呼び方なども含む)の具体的な対応。
	(不登校児童生徒復帰率)新型コロナウイルスによる休校や社会情勢の変化が継続している中ではあるが、継続して教育相談や心理相談を行った結果、わずかに目標を下回ったが不登校復帰率が44%となった。コロナ禍による学校生活及び日常生活が続く中でその不安を和らげるためには、教育相談や心理相談を通じて学校・保護者・関係機関が常に連携して支援を行っていく必要がある。	
今後の取り組み方針		
<p>今後も、発達支援が必要な児童生徒が学校教育を当たり前可以享受できるよう、以下の取り組みを行っていく。</p> <p>①学びの多様化に対応に向けた、「主体的・対話的な学び」の推進を図るため、個別最適な学びを構築しておく。そのためには「個別の支援指導計画」を作成し支援の充実を図る。</p> <p>②保護者・教師・支援員の連携だけでなく、個別の支援計画を更に充実(定期的な見直し等)させ、関係機関(児童デイや療育施設等)との連携につなげる。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	29,168	29,136	23,308	5,828	32
中城村 29,136千円	(報酬13人) 21,959千円	特別支援員及び相談員13人 幼稚園 2人 小学校 6人 中学校 1人 教育相談員3人 心理士1人			
	(職員手当等13人) 2,461千円	特別支援員及び相談員13人 幼稚園 2人 小学校 6人 中学校 1人 教育相談員3人 心理士1人			
	(共済費13人) 4,259千円	特別支援員及び相談員13人 幼稚園 2人 小学校 6人 中学校 1人 教育相談員3人 心理士1人			
	(旅費13人) 457千円	特別支援員及び相談員13人 幼稚園 2人 小学校 6人 中学校 1人 教育相談員3人 心理士1人			
資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支援員の採用については、村の条例規則等に基づき雇用契約を行っており、妥当であったと考えている。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予定していた事業規模はほぼ実施できたので予算規模は適正であったと考えている。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目、使途については、目的達成に必要な人件費等に充当し限定されている。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名	中城村						
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	学力向上のための学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	村内中学校に学習支援員を配置し、数学を中心とした学習支援を実施することで、学力の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		17,793	6,225	6,297	7,524	6,062
			5,647	6,225	6,292	7,524	5,000
			▲ 12,146	0	▲ 5	0	▲ 1,062
			5,647	6,225	6,292	7,524	5,000
	B. 執行済額 うち交付金充当額		5,647	6,218	6,292	7,524	4,763
			4,517	4,974	5,033	6,019	3,810
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	95.3%
	予算の状況の説明	当初予算どおり適切に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	学習支援員配置 中学校2人		目標 (中学校3名) 実績 中学校3名	(中学校3名)	(中学校3名)	(中学校2名)	
達成状況説明	学習に課題を持つ生徒に対して、学習支援員2人を配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	県学力到達度調査(数学)において、県と本村との平均正答率の差-5.8ポイント以上		目標 (差-4.5P以上) 実績	差-4.2P () 以上	(差-5.4P以上)	(差-5.8P以上)	()
				差-8.6P	差-4.8P	差-1.7P	
進捗状況説明	前年度よりも平均正答率の差が大幅に縮まり目標を達成することができた。支援の質の向上に取り組み、継続して支援を実施してきたことで、着々と学力の底上げに繋がってきている。数学教科担任と連携した授業内の学習支援、個々の生徒課題を基に、他教科も含む学習支援、放課後の補習を通じた個々の生徒に合わせた学習支援を実施した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	各学習状況調査等の結果を踏まえ、関係職員で分析を行い、それらの分析結果を基に、組織的な指導・支援を行った。また、個々の学習状況を把握し、生徒の変容を確認しながら教科担任と連携し、生徒の学力状況に応じた問題の作成や学習支援を行った。また、外部検定の受検など放課後の補習活動を実施し、基礎学力の定着を図った。	県到達度調査において平均正答率が県平均を超えている学年があった。生徒の学力状況の実態の把握及び課題の改善に向けて、個々の基礎学力状況に応じた学習支援の充実を図る。また、放課後の補習活動において、少人数のグループで行うなど、支援の質的向上に取り組む。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 各学習状況調査等の結果を踏まえ、関係職員で分析を行い、それらの分析結果を基に、組織的な指導・支援をおこなう。 個々の学習状況を把握し、生徒の変容を確認しながら教科担任と連携し、具体的な支援を行う。 外部検定等への受検を促し、目標を設定することで学習意欲の向上に取り組む。 		

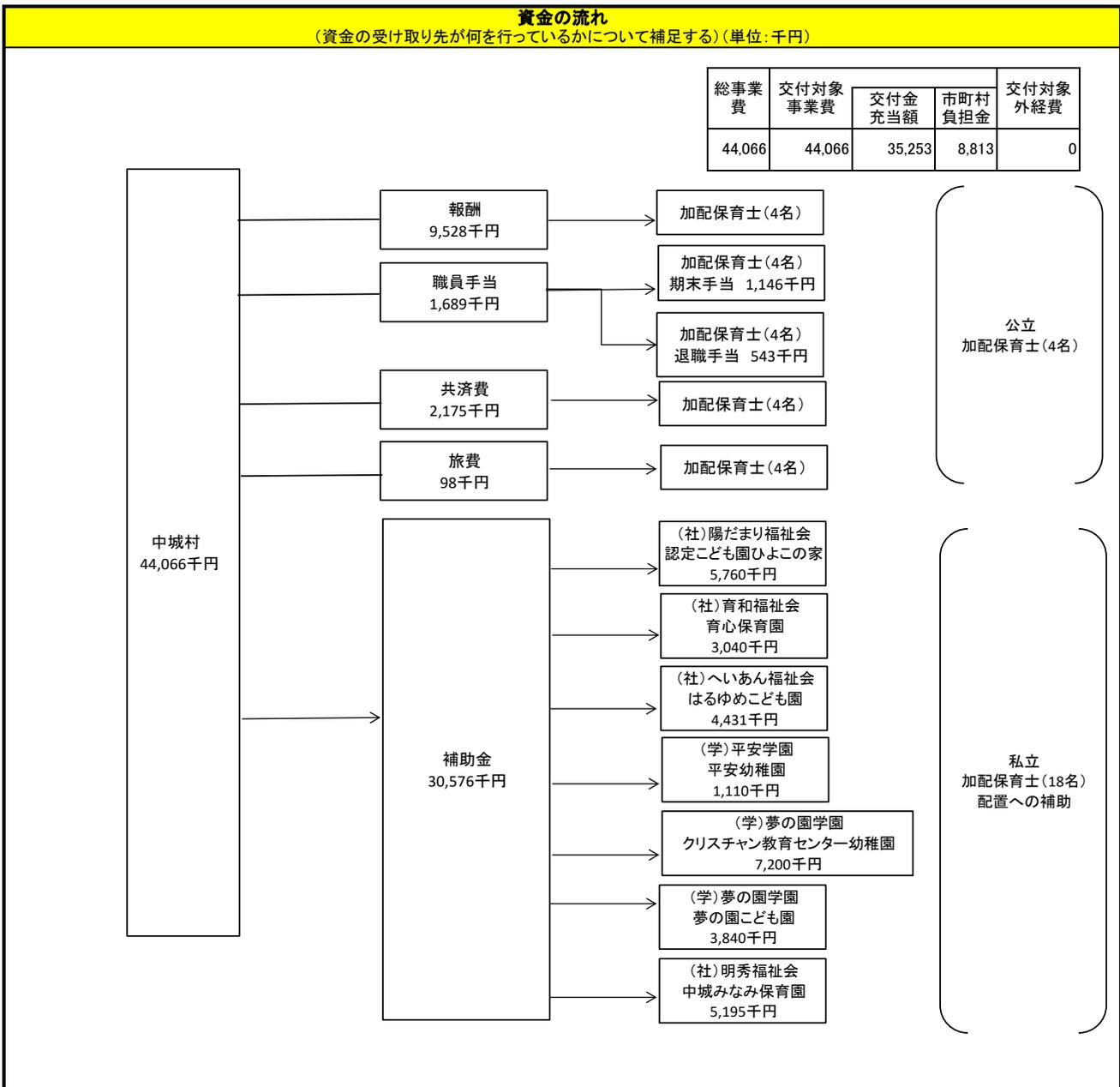
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の採用については村の会計年度任用職員の任用、勤務条件に関する条例に基づき雇用契約を行っている。 ○予定していた事業内容はすべて実施されたことから予算規模は適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	子育て保育支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	こども課	事業実施 (予定)年度	平成29～令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	地域における子育て支援の充実 III-3-(1)	
事業内容	心身に障がいのある児童又は、発達に遅れのある特別な支援が必要な児童を保育所等で受入れるために、保育士加配に対する支援を行い、一般の児童と共に集団保育を行う体制を構築する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	30,504	36,683	36,935	47,061	43,935
		(b) 予算現額	29,001	29,299	34,071	34,801	44,066
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,503	▲ 7,384	▲ 2,864	▲ 12,260	131
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		29,001	29,299	34,071	34,801	44,066
	B. 執行済額		29,001	29,299	34,071	34,801	44,066
	うち交付金充当額		23,200	23,439	27,256	27,841	35,253
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		予算を目的通り適切に執行することができた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・加配職員数21名	目標	(加配職員数16名)	(加配職員数18名)	(加配職員数22名)	(加配職員数21名)	
		実績	加配職員数13名	加配職員数17名	加配職員数18名	加配職員数22名	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	加配保育士の確保が出来ない保育園があったことから、当初の計画通りに加配保育士を配置出来なかった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値 (年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (年度)
	保育園での生活の困難が改善されたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		91%	88%	90%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	対象児の保護者アンケートの結果29人中6人回答のうち90%が「良かった」と回答しており、加配保育士を配置し、手厚く支援することは効果的であった。また、加配保育士と情報交換会を実施する予定でしたが、コロナ化の影響で実施できず、心理士の個別訪問により助言・指導を行い加配保育への理解を図った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(保護者へのアンケート) ・加配保育については目標を上回る結果を得ることができた。加配保育士が対象児をサポートすることで、保護者の不安の軽減につながったのが要因であると考える。 ・一部の保護者からは、担当保育士が新任の為、期待していた支援保育ができていないとの意見があった。	様々な障害を持つ児童が年々増加していることや、施設によって加配保育の経験がない保育士がいる為、加配保育の内容に差がある。 保護者からの意見を共有できるように定期的に情報交換会を実施し、加配保育の質の向上を図っていく。
今後の取り組み方針		
・引き続き、加配対象児童を受け入れるために、施設への支援を継続して実施し、他の児童と共に集団保育を行っていく。また、加配保育士の情報交換会を定期的に行い、保護者や児童への対応などについて指導や助言をし、加配保育への質の向上を図る体制を整備する。		



資金の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助事業者は支援が必要な子の受け入れが可能な施設であるため、妥当であると考えている。 ・事業者負担もあり、事業内容から鑑みて妥当であったと考える。 ・費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村						
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑤	ひとり親家庭学童利用支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2(2)-エ		
担当部署名	こども課	事業実施(予定)年度	H30年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育及び子育て支援環境づくり整備事業 Ⅲ-2(2)-エ		
事業内容	ひとり親家庭の学童利用に係る負担の軽減を図り、ひとり親家庭でも安心して子育てができる環境を整備するため、学童クラブが、ひとり親家庭の学童利用者に対し利用料を減免した場合に補助を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	6,000	6,000	6,000	
		(b) 予算現額	4,418	4,815	5,015	5,300	
		(c) 増減額(b-a)	1,418	▲ 1,185	▲ 985	▲ 700	
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	4,418	4,815	5,015	5,300	
		B. 執行済額	4,418	4,730	4,905	4,855	
		うち交付金充当額	3,534	3,784	3,923	3,884	
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	100.0%	98.2%	97.8%	91.6%	
予算の状況の説明	対象者が年度途中で退所少なくなったため減額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	学童への支援の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	村内の8学童に対し、4,855千円の補助を行い、学童支援を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	安心・安全に子供を預ける事ができ、育児の負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、ひとり親家庭の保護者へのアンケートにより本事業を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		100%	100%	97%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	円滑に支援を実施してきたことで目標を達成し、ひとり親家庭の生活環境安定に寄与することができた。保護者へのアンケートでは学童クラブの利用について、ほぼ全員(97%)が役立ったと回答あり。(役立たなかった0%、記入なし3%)					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>保護者が、利用する学童へ直接申請し、学童クラブが請求、助成を行うことにより保護者の手続きを簡略化し、保護者が学童クラブの減免を利用しやすい環境となっている。</p> <p>また、年度途中で支援を必要とする家庭もあるため、そういった対象者への支援漏れがないよう、学童クラブへ継続的に周知を行っていくとともに、他の学童へ転園する場合も、継続して減免を利用できるよう学童保育連絡協議会で連携を強化し、周知していく。</p>	<p>対象者が支援を円滑に受けられるよう、HPや学童への入所申込時に継続的に周知活動を行うこと。また、学童保育連絡協議会を通じ、村内の他の学童クラブへ転園する場合も、助成が途切れることなく受けられるよう学童クラブと事務調整を行い、他学童クラブとの連携を強化して行く必要がある。</p>

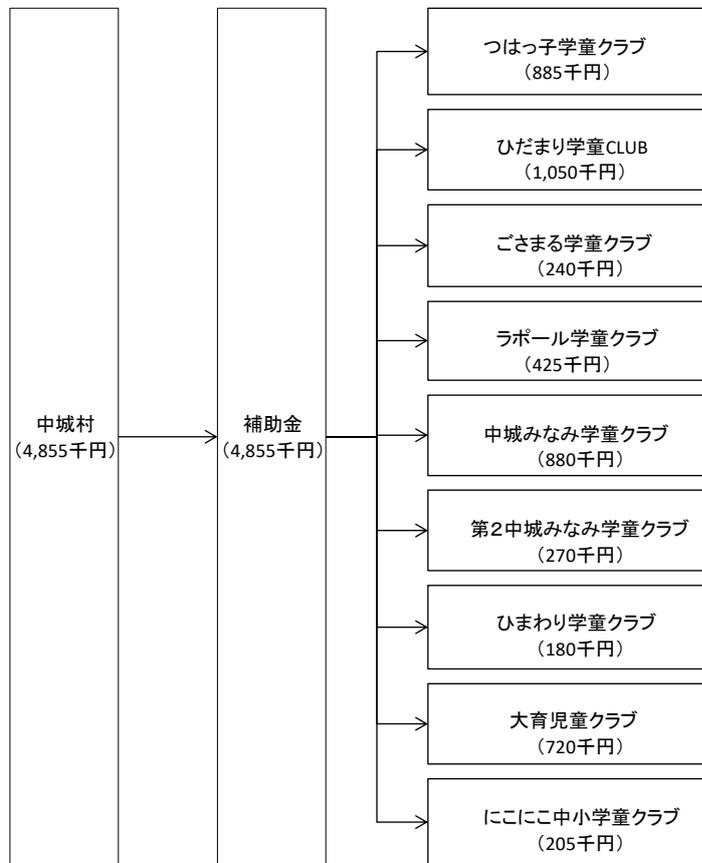
今後の取り組み方針

4月に入所してくる受付対象者だけでなく、年度途中にでてくる対象者についても支援漏れがないよう、HPでの周知や、村内学童クラブとの連絡協議会等での情報交換を行い連携を強化するとともに、学童への申込時に支援の案内を行い、村内転園時でも、助成が途切れる受けることができ、ひとり親家庭が安心した生活環境が確保できるよう継続して周知を行っていく。

保護者へのアンケートの結果、保護者の就労や求職活動等のひとり親家庭が安心して生活環境が確保できるという目的のために役立ったとする回答が97%となり、利用者のほぼ全員が役立ったと回答している。役立った理由については、学童利用料の負担が減った80%、仕事を休まずにすんだ76%、お迎え等を理由に勤務時間の変更や転職をせずにすんだ56%等、安定な生活を継続するのに役立っている。次年度も本事業を利用したいとの問いには81%が利用希望であり、残りの希望しない保護者の理由としては、該当しないが18%、部活動が36%、転出36%となっており、学童を利用する保護者の多くが本事業の継続を要望している。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,855	4,855	3,884	971	0



ひとり親家庭の学童クラブ利用料免除に係る学童クラブへの補助

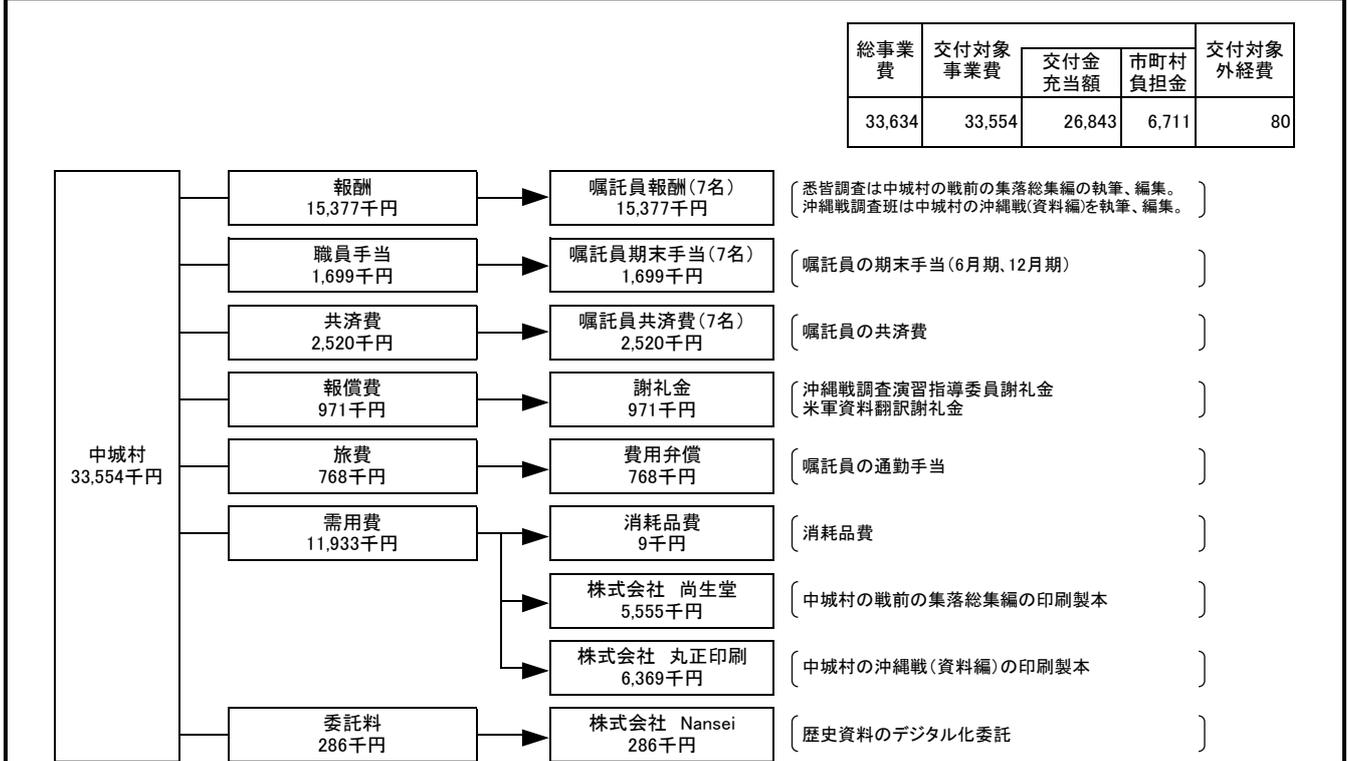
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、当該事業の要綱に規程している学童クラブであり妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、見込100人に対し延べ97人であるため、適正だったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である学童クラブに対する補助金は学童利用料のおおよそ1/2であること、また、保護者の減免額分を補助額として負担しているので妥当だと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、清算段階で目的に即しているかを確認し、必要であったと判断した。

市町村名		中城村				
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	5-①	文化財悉皆及び中城村沖縄戦調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部署名	中城村教育委員会 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	村民の文化財保護意識の高揚と文化財の活用を図るため、村内文化財の悉皆調査を行い文化財の位置及び現況を把握することや、村内の沖縄戦に関する遺跡の所在、体験談を記録に残し、次世代に継承するため調査事業を行う。					
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R4年度)					
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
		(a)当初予算額	22,796	33,540	25,008	26,689
	(b)予算現額	21,140	33,540	20,262	18,796	33,554
	(c)増減額(b-a)	▲1,656	0	▲4,746	▲7,893	▲3,615
	(d)繰越額	0	0	0	6,655	0
	A.計(b+d)	21,140	33,540	20,262	25,451	33,554
	B.執行済額	21,098	29,991	19,777	18,796	33,554
	うち交付金充当額	16,877	23,993	15,821	15,036	26,843
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	99.8%	89.4%	97.6%	73.9%	100.0%
予算の状況の説明	不用額は刊行物印刷製本費の入札残と、コロナ感染症万円防止措置に伴う自宅勤務による旅費の減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況			
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	【文化財悉皆調査】 「中城村戦前の集落総集編」の発刊	目標	(-)	(-)	(-)	(発刊)
		実績	-	-	-	発刊
	【沖縄戦調査】 「中城村の沖縄戦 資料編」の発刊	目標	(-)	(-)	(-)	(発刊)
		実績	-	-	-	発刊
	【文化財悉皆調査】 各集落での聞き取り調査の実施	目標	(2字)	(3字)	()	()
		実績	2字	3字		
	【文化財悉皆調査】 調査概報(各字パンフレット)の作成:3字(合冊)	目標	()	(3字)	()	()
		実績		3字		
【文化財悉皆調査】 「中城村の拝所」の作成	目標	()	(冊子の作成)	()	()	
	実績		冊子の作成			
【中城村沖縄戦調査】 調査員による沖縄戦調査	目標	(調査の実施)	(調査の実施)	()	()	
	実績	調査の実施	調査の実施			
【中城村沖縄戦調査】 中城村戦跡マップの作成	目標	()	(マップの作成)	()	()	
	実績		マップの作成			
①「中城村の文化財」500部の発刊、配布	目標	(-)	(-)	(発刊・配布)	()	
	実績	-	-	発刊・配布		
②「中城村の沖縄戦 証言編」500部、「中城村の学童疎開」リーフレット1000部の発刊、配布	目標	(-)	(-)	(発刊・配布)	()	
	実績	-	-	発刊・配布		
③沖縄戦に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、参加者に対してアンケートを実施し本事業のあり方を検証する。	目標	(-)	(-)	(80%)	()	
	実績	-	-	未実施		
達成状況説明	【文化財悉皆調査】これまで村内各字の戦前の集落調査の成果をまとめ、「中城村戦前の集落総集編」を発刊した。 【沖縄戦調査】これまでの調査で収集した成果をまとめ「中城村の沖縄戦 資料編」を発刊した。					

R3成果目標(指標)		基準値	R1年度	R2年度	R3年度	目標値
		(R2年度)				(R4年度)
展示会の開催	目標	(1,568人)	(-)	(-)	(実施)	(3,200人)
	実績		-	-	未実施	
①「中城村の文化財」500部の発刊、配布	目標	()	(-)	(発刊・配布)	()	()
	実績		-	発刊・配布		
②「中城村の沖縄戦 証言編」500部、「中城村の学童疎開」リーフレット1000部の発刊、配布	目標	()	(-)	(発刊・配布)	()	()
	実績		-	発刊・配布		
③沖縄戦に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、参加者に対してアンケートを実施し本事業のあり方を検証する。	目標	()	(-)	(80%)	()	()
	実績		-	未実施		
悉皆調査率 沖縄戦の調査における記録	目標	()	(83%)	()	()	()
	実績		100件 83% 237件			
移民に関する基礎調査	目標	()	(基礎調査の完了)	()	()	()
	実績		基礎調査の完了			
進捗状況説明	令和4年度中の展示会開催に向けて会場管理者と開催日時と期間の調整を行い、展示内容の検討、資料の準備を行っている。また、沖縄戦に関するアンケートについても展示会で実施する予定である。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>【悉皆調査、沖縄戦調査】</p> <p>悉皆調査、沖縄戦調査とも年次計画に沿って調査を実施してきていて令和元年度で聞き取り調査をほぼ終えて、令和3年度に成果をまとめた冊子(「中城村の戦前の集落」、「中城村の沖縄戦資料編」)を発刊した。</p> <p>これまで各字で実施してきた聞き取りや、関係各所から収集してきた資料の量は膨大であり、今後これら記録資料のデジタル化やデータの保存、保管等が課題である。</p>	<p>【悉皆調査、沖縄戦調査】</p> <p>これまで収集した資料だけでなく、今後新たに収集された資料が既存資料に追加出来るよう資料保存管理を向上させる必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>【悉皆調査、沖縄戦調査】</p> <p>悉皆調査は、令和3年度に「中城村の戦前の集落総集編」を発刊し、今後、調査成果展を実施する。</p> <p>沖縄戦調査も悉皆調査と同様に「中城村の沖縄戦資料編」を発刊した後は、調査成果展を実施する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



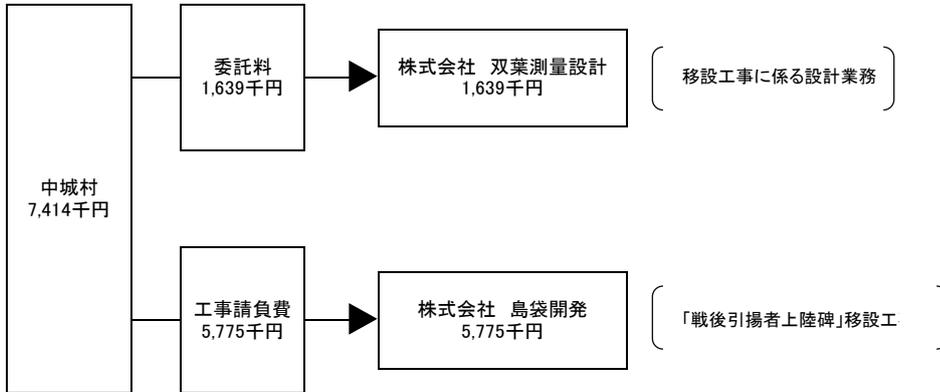
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○印刷業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の約10%以内であり、適正規模であったと考えている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③	文化財整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部署名	中城村教育委員会 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	沖縄戦に関する歴史教育と恒久平和の継承を図るため、民間企業地内にある「戦後引揚者上陸碑」を見学がしやすいように移設を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R4年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		10,627	5,549	3,685		7,844
			10,736	5,549	3,630		7,414
			109	0	▲ 55	0	▲ 430
			-	0	0		0
	B. 執行済額		10,736	5,379	3,630		7,414
	うち交付金充当額		8,588	4,302	2,904		5,931
	次年度繰越額		-	0			0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	96.9%	100.0%	#DIV/0!	100.0%
	予算の状況の説明		当初の計画通り事業を実施した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	「戦後引揚者上陸碑」移設に係る移設工事、設計委託	目標	(-)	(-)	(-)	(移設実施)	
		実績	-	-	-	移設実施	
ガジマル植替え工事の実施	目標	()	(植替えの実施)	()	()		
	実績		植替えの実施				
達成状況説明	「戦後引揚者上陸碑」の移設を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	「戦後引揚者上陸碑」移設に係る移設工事、設計委託	目標	()	()	()	(完了)	()
		実績	/			完了	/
	「伊舎堂前の三本ガジマル」の植替え完了	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績	/	完了			/
	【参考指標】 「戦後引揚者上陸碑」を活用した平和教育等の見学者150人(村内小中学校等の平和学習利用者90人+文化財巡りツアー60人)	目標	()	()	()	()	(150人)
実績		/				/	
進捗状況説明	「戦後引揚者上陸碑」の移設を完了した。民間企業地から移設したため見学しやすさが改善され、沖縄戦や戦後復興に関する歴史や平和教育に資する環境が整備された。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(「戦後引揚者上陸碑」移設に係る移設工事、設計委託) 「戦後引揚者上陸碑」が民間企業地内にあったため、見学が容易にできないという課題があった。 本事業において、民間企業地内から沖縄県管理地へ移設したことで移設先までの整備を行うことにより、見学しやすい環境が整い課題解決に繋がった。 今後は、情報発信を行い、平和教育に係る地域戦跡巡りなどを推進していく必要がある。	(「戦後引揚者上陸碑」移設に係る移設工事、設計委託) 村内小中学校の平和学習の実施や、村内文化財マップや戦跡関係マップ、村HP等に記載して、村内外に情報発信を図っていく。
	今後の取り組み方針	
(「戦後引揚者上陸碑」移設に係る移設工事、設計委託) 「戦後引揚者上陸碑」を移設したことで、村内外の人々が容易に見学できる環境が整ったため、今後は村内外の人々に情報発信を行うとともに、沖縄戦や戦後復興の歴史を学ぶ地域戦跡巡りを実施し平和教育を図る。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,414	7,414	5,931	1,483	0



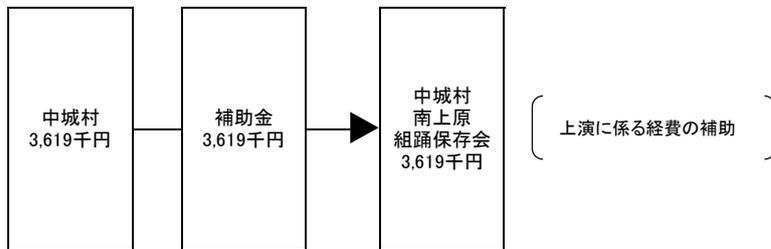
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者及び工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の約6%であり、適正規模であったと考えている。 ○費用、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-④	中城村地域多世代交流活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-イ	
担当部署名	中城村教育委員会 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化の担い手の育成	
事業内容	伝統文化の振興及び継承促進を図るため、組踊の演舞及び継承等を行っている村内団体の活動を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,500	3,000			3,619
		(b) 予算現額	2,340	3,000			3,619
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,160	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0			0
	A. 計(b+d)	2,340	3,000	0	0	3,619	
	B. 執行済額	2,340	2,467			3,619	
	うち交付金充当額	1,872	1,973			2,894	
	次年度繰越額					0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	82.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	
予算の状況の説明	当初の計画通り事業を実施した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	村内組踊団体への補助の実施	目標	(実施)	(-)	(-)	(実施)	
		実績	実施	-	-	実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初の目標どおり、伝統文化の振興及び継承促進を図るため、補助を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(R3年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	来場者の沖縄伝統文化に対する理解度の向上(伝統文化の振興)	目標	(80%)	()	()	(80%)	()
		実績				87%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	来場者の沖縄伝統文化に対する理解度は、当日上演後に実施したアンケートの集計結果から目標を上回る87%となった。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	(沖縄伝統文化に対する理解度の向上) 伝統文化を継承する人材(児童生徒)が育成されてきており、同じ演目を以前演じた者が新たに演じる者に率先して指導する状況が確認できた。しかし、指導者ほどの細かい技術や知識がないため更なる知識や技術の習得が課題である。	(沖縄伝統文化に対する理解度の向上) 上演前に伝統文化を継承している児童生徒による解説(口頭のみ)を行っているが、今後は映像なども取り入れて来場者がさらに伝統文化に興味をもってもらえるような取り組みが必要である。
今後の取り組み方針		
(沖縄伝統文化に対する理解度の向上) 引続き伝統文化の振興及び継承促進が行えるように人材を集めるとともに、指導者を含めた人材の育成、上演を通して伝統文化の振興が図っていけるように取り組む。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,619	3,619	2,894	725	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は当該事業内容を実施している団体であるため妥当であったと考えている。 ○経費節減に努めながら事業を実施し、不用額はなかったことから適正であったと考える。 ○費用、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		中城村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	中城村農業振興環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成30～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性を活かした産業活性化事業 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	本村で伝統的に栽培されている農作物の生産量の増加を図るため栽培試験を行う。そのために必要な圃場等の環境整備や試験を行う人員の配置を行い、より効果的な栽培技術の確立を目指す。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R4年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,104	8,252	5,808	5,895	
		(b) 予算現額	8,058	6,575	5,400	5,945	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,046	▲ 1,677	▲ 408	50	
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		8,058	6,575	5,400	5,945	
	B. 執行済額		8058	6575	5,400	5,945	
	うち交付金充当額		6447	5260	4,320	4,756	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		50千円の増額については、農業指導員の報酬の増額によるものであり当初計画どおり、適切に事業を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	栽培作業軽減化と品質向上を目指す試験栽培の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(反復試験実施)	
		実績	2品目試験実施	2品目試験実施	3品目試験実施	反復試験実施	
	前年度試験栽培した栽培方法を農家で実証試験を実施	目標	()	()	(実施)	(反復実証試験実施)	
		実績			生産農家での実証試験実施	反復実証試験実施	
	営農指導員2人の採用	目標	(2人)	(2人)	(1人)	(1人)	
		実績	2人採用	2人採用	1人採用	1人採用	
	作業補助員1人の採用	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実績	1人採用	1人採用	1人採用	1人採用	
試験用ハウス建築	目標	(1棟)	()	()	()		
	実績	1棟整備					
達成状況説明	・前年度行った栽培作業軽減化と品質向上にむけた試験の効果を確認するため反復試験を実施した。 ・生産農家の圃場で、前年度行った実証試験の効果を確認するため、加工種子を使用した実証試験を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	島にんじん間引き作業軽減に向けた播種方法及び品質向上に向けた栽培試験の実施	目標	()	()	()	(栽培試験実施)	()
		実績				栽培試験実施	
	島だいこん栽培方法の違いによる発病の状況調査試験を実施する。	目標	()	()	()	(試験実施)	()
		実績				試験実施	
	試験栽培の結果を基に、栽培指針の作成	目標	()	()	()	(栽培指針作成)	()
		実績				栽培指針作成	
	栽培作業軽減化と品質向上を目指す試験栽培の完了	目標	()	(完了)	(完了)	()	()
		実績		2品目試験完了	3品目試験完了		
	前年度試験栽培した栽培方法を農家で実証試験の完了	目標	()	()	(完了)	()	()
実績				完了			

営農指導員の採用	目標	()	(2人)	(1人)	(1人)	()
	実績	/	2人	1人	1人	/
作業補助員の採用	目標	()	(1人)	(1人)	(1人)	()
	実績	/	1人	1人	1人	/
【参考指標】 試験栽培により確立された栽培技術について、 営農指導を受けた村内の農家の割合 80%以上	目標	()	()	()	()	(80%以上)
	実績	/				/
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度実施した試験の効果を確認するため、島ニンジンの間引き作業軽減にむけ加工種子を使用した播種試験及び島ダイコンの農薬軽減に向け防虫ネットを使用した試験を行い効果について確認した。島ニンジンは、加工種子による間引き作業の軽減効果について確認することができた。島ダイコンは、防虫ネット使用期間の違いによる発病への影響について検証し、効果的な使用時期を確認することができた。 ・島ニンジンの栽培指針を作成することができた。 					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>・島ニンジンの間引き作業の軽減試験や島ダイコンの防虫ネットを使用した栽培試験によりそれぞれの効果について確認することができた。今後は生産現場への普及を行っていく必要がある。</p>	<p>・試験結果を基に作成した栽培指針を活用して生産農家と勉強会や栽培講習会などを行い、栽培技術や品質向上に向けた取り組みを行っていく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・JAや生産団体など関係機関と連携を図り、生産農家を対象とした勉強会や栽培講習会などを開催し、生産技術及び品質向上に向けた取り組みを行っていく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	5,945	5,945	4,756	1,189	0
中城村 5,945千円	報酬	4,064千円	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> 営農指導員 1名 作業補助員 1名 </div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> 試験圃場賃借料 </div>		
	期末手当	397千円			
	共済費	704千円			
	旅費	205千円			
	需用費	544千円			
	土地賃借料	31千円			

資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○予定していた事業内容はすべて実施され、活動目標・成果目標の達成状況を鑑みて予算額の規模は適切であった。</p> <p>○不用額は事業費の1%以下であり適正な規模であった。</p> <p>○費用・使途は、事業完了時の検査において精査しており妥当であったと判断する。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	